

## 処方箋データを用いた高齢者へのダビガトラン処方実態調査

### 【背景と目的】

プラザキサカプセル（ダビガトラン）は DOAC（直接作用型経口抗凝固薬）の 1 つであり、2011 年 3 月に販売開始され、心房細動患者に対する脳梗塞の発症抑制のための処方が大半となっている薬剤である。しかし、重篤な出血性の副作用や死亡例が数例報告されたことで、注意喚起を促すために 2011 年 8 月 12 日にダビガトランにブルーレターが出された。このブルーレターによって添付文書が改訂され、患者の腎機能を確認し慎重に投与する旨などが追加された。今回はこのブルーレター発出前後でダビガトランの処方用量やダビガトランとの併用薬などにどのような影響を及ぼしたかを調べる。

### 【方法】

データは大洋メディカルサプライグループが展開する調剤薬局 14 か所を利用した 60 歳以上の高齢者の処方箋データを使用し、期間は 2011 年 4 月から 2017 年 3 月までの 6 年間とした。対象となった患者数は 1,024,728 人、患者の ID 数は 54,339 であった。

### 【結果】

本発表では、ダビガトランの併用薬数や出血リスクの高い薬剤との併用割合などを示す。

### 【考察と今後の展開】

ブルーレターのような行政の安全対策措置の影響評価には、その介入前後での比較を行う Interrupted Time Series Analysis (ITS) を使ったセグメント回帰解析が適していると考えられる。本発表では結果の考察とともに ITS データやセグメント回帰解析についても説明する。

### 【参考文献】

James Lopez Bernal, Steven Cummins, Antonio Gasparrini. Interrupted time series regression for the evaluation of public health interventions: a tutorial. International Journal of Epidemiology, 2017, vol.46, No.1, 348-355 など